総合英語演習 II(TOEFL)の授業内容，効果と問題点

新 田 香 織

Kaori Nitta:Content,Effectiveness and Problems of the TOEFL Course

1. はじめに

総合英語演習 II(TOEFL)は，二年生を対象とし，自由選択科目で通年週4時間4単位が与えられる。履修者には，最低2回（7月と12月）の TOEFL 受験を課し，目標得点を，550–600点とする。TOEFL は，北米やオーストラリアの大学，大学院に留学を希望する者が，受験を要求されるテストで，Listening Comprehension, Structure and Written Expression, Reading Comprehension and Vocabulary の3部から成り，得点は200–700点の偏差値として出される。要求得点は，大学によって異なり，ちなみに米国の州立大学では500–550点である。

この演習は，単に受験対策だけでなく，必修科目である発音学，英文法，英文講読，英作文などを基礎とする総合的実践的運用能力を，TOEFL という客観テストで測ろうとするものでもある。テスト内容に応じて，サバイバル英語力並びに講義やテキストの内容理解力（推理力，判断力）の養成を目標としている。履修者の多くが，短期または長期留学を希望しているが，役に立つ総合英語として，留学を希望していない学生にも受け入れられる演習として位置付けられることを目指している。この演習をより効果的なものとするために，必修科目をご担当の先生方に，授業内容を知って戴き，お力をお貸し戴ければ幸いである。

具体的な授業内容に入る前に，時間配分と教材を紹介する。

授業の時間配分

＊前期（週2回，各2時間）

1回2時間の授業で，リスニングと文法を1時間ずつ行う。

＊後期（週2回，各2時間）

1回2時間の授業で，1時間をリーディング，1時間をリスニング，または文法にあてる。リーディングは計12時間程度とし，残りの時間は，リスニングと文法の模擬テストを行う。

12月10日前後に実施の TOEFL に，照準を合わせて時間配分をしている。

試験以降の授業では，未習の「役に立つ表現」を扱う。

使用教材

1) Carol King and Nancy Stanley. *Building Skills For The TOEFL*. Nelson
2) Victor W. Mason. *Practice Tests For The TOEFL*. Nelson
3) Edith H. Babin, Carole V. Cordes and Harriet H. Nichols. *TOEFL*. ARCO

1）は，前期のリスニングと文法，後期のリーディングのテキストとして使用し，2）と3）は，リスニングと文法の模擬テストとして用いる。

Ⅰ．リスニング・セクションの内容と進めかた

1. パートA(Similar Sentences)の内容

(1) 出題頻度の高い文法事項（比較，条件法，仮定法，譲歩表現などの接続詞を含む文，因果関係，法助動詞プラス完了形）を，項目別に練習。
(2) 母音・子音の聞き分けと同義語の選択。
(3) 複数の意味を持つ単語の，あるコンテクストにおける意味の選択。
(4) スペリングと発音との関係を知ること，あるコンテクストにおいて二つの同音意義語のうち，どちらが適切か選択。

上記のうち，(2)(3)(4)は家庭学習に委ねる。(2)の母音・子音の聞き分けと，(4)のスペリングと発音との関係については，発音学の中で十分に習得できるものと思われる。

2. パート B(Short Conversations)の内容

(5) テープの内容から，話者の職業，身分，立場などを判断。

(6) テープの文に含まれる単語を，類似した発音とスペリングを持つ四つの単語より選択。
(7) 会話の目的（要求，申し出，容認，拒否，同情，謝罪，不平，忠告，招待，賛美，弁解，警告など）を判断。
(8) テープの文に含まれるキーワードから，その会話が行われている場所を判断。

(5)に関しては，医者，患者，図書館員，図書館利用者，警官，修理屋，ディーラー，スチュワード，ガソリンスタンドの店員，ツワーガイド，クリーニング屋，タクシードライバー，銀行の窓口係などが，よく用いる表現，単語などの暗記を行う。(6)は，家庭学習とする。

(7)では，典型的なオープナー，例えば，要求の場合の，“Will you...? Would you mind...? Could you...?”，申し出の場合の，“Can I...? Do you want me to...? Would you like...?”などを，判断のキーワードとして教える。又，“I don't know.”が拒否の意図で用いられることなど，実際の会話での微妙なニュワンスにも触れる。日常生活でよく使われるにもかかわらず，学生にとってなじみの薄い単語や表現が数多く現れるので，それらの説明と暗記に相当の時間を費やす。

(8)では，判断に用いるキーワードが一つでは，誤りがちなケースについて学習する。例えば，“book”という単語は，“stamps”とともに聞き取れば，郵便局，“flight”とともに聞き取れば，空港での会話であると判断できる。短絡的に書店での会話としないように注意を促す。基本的な単語が，日常会話では，複数の意味で用いられることが案外，学生の知識から欠落している。

パートBでよく出題される質問文は以下のとおりである。

- Where does this conversation most probably take place?
- What does the man〔woman〕mean?
- What do we learn from this conversation?
- What are they talking about?
- What happened to the man〔woman〕?
- What is the man's〔woman's〕reason for?
- How did the man〔woman〕feel about...?
- What does the man〔woman〕wish to do?

・What are they going to do?　etc.

他に，why，how long，how much で始まる質問文も多く見られる。

3．パートC(Mini－Talks and Longer Conversations)の内容

(9)　トピックの判断と，可能な質問の予想，そしてクェスチョンワードの聞き取り。

(10)　単語や語句のパラフレーズの選択。

(9)では，学科名とレクチャーの内容とを結び付ける練習，ミニトークに含まれる情報から可能な質問を予想する練習などを行う。また，クェスチョンワードとそれが求める情報との関連性を学ぶ。(10)は，家庭学習とする。

4．授業の進めかた

授業は，(5)(7)(8)(9)(1)の順序で行う。パートBを最初に扱う理由は，文がシンプルで学生にとって取り組みやすいことと，実際のテストで最も点数が取りやすいことにある。一時間（50分）の授業の進めかたは，以下の通りである。

＊(5)(7)(8)(9)の進めかた

1）内容に関する説明と指示。

2）テープを一回聞かせて，解答を書かせる。(一回につき10–20問)

3）答えを与え，テープスクリプトを配布して，説明。

4）音読の後，再度テープを聞かせる。(学生はスクリプトを見ながら，聞き取れない単語をチェックする。)

(5)に関しては，家庭学習で既習の文をすべて暗記することを課し，次の時間の冒頭でチェックする。(一回に20問とすると，二回目の授業でその20問の復習，三回目の授業では40問というように，復習は必ず最初の文から行う。よって，(5)がすべて終わった段階で，合計100の英文を暗記していることを要求する。) (7)(8)(9)については，重要単語や役に立つ表現の暗記を宿題とし，(5)と同様，頻繁にチェックする。

＊(1)の進めかた

1）文法と習得すべき表現を説明。

2）テープを一回聞かせ，解答を書かせる。(一回につき，15–20問)

3）答えを与え，テープスクリプトを配布し，一文ずつ和訳させる。

4）再度テープを聞かせる。(学生は，スクリプトを見ながら，機能語などをチェックする。)

"as...as" と "almost as...as"，条件法と仮定法の違い（書かれた文は正確に判断できるが，聞き取りは非常に困難），"may" と "might" の違い，仮定法過去完了に用いられる "could have p.p." などと "must have p.p." の違いなど，細かい知識に欠ける，ないしは聞き取りでの瞬時の判断が出来ない。

宿題としては，文法事項の理解と習得すべき表現(be attributable to, be due to, give rise to, bring about, result in, result from など）の暗記を課す。これも次の時間の冒頭で復習する。

上記以外に，既習のテープは各自コピーし，家庭で最低十回（スクリプトの単語がすべて聞き取れるまで）聞くように指導している。

前期においては，月に一度，単語，フレーズ，文の復習テストを行い，それらの定着を試みている。

II. ストラクチャー（文法）・セクションの内容と進めかた

このテキスト(Building Skills For The TOEFL)では，まず最初に，"10-Point Checklist of Problem Areas" を重要なものから順に列記し，すべて暗記して，問題に取り組む際にこの順序でチェックを行うことを指示している。

10-Point Checklist of Problem Areas

(1) Check for subject and verb(both present;neither repeated).
Example of error:Children *they* need love and protection.

(2) Check verb agreement, tense, and form.
Example of error:That student has *living* here for ten years.

(3) Check for full subordination.
Example of error:Because *wanted* to learn fast, the girl studied all the time.

(4) Check the verbals.
Example of error:This is a very *interested* book.

(5) Check pronoun form, agreement, and reference.
Example of error:It was *me* who answered the telephone.

(6) Check word form.

Example of error: Those roses smell *real* sweet.

(7) Check word order.

Example of error: The policeman asked the man what *was he* doing.

(8) Check for parallel structure.

Example of error: He likes to swim, to play tennis, and *riding* horses.

(9) Check for unnecessary repetition.

Example of error: He is a very fast, *quick* runner.

(10) Check for correct usage.

Example of error: She is interested *for* learning Arabic.

次に，各項目別に，基本的な知識を確認し，段階を追った豊富な問題を通してポイントを理解する。各項目の終わりには，TOEFL Practice として実際の問題形式による練習問題10問が用意されている。

上記の各項目の内容の概要は，以下のとおりである。

(1) Subject and Verb

1）五種類の主語（名詞，代名詞，動名詞，不定詞，名詞節）の判別。

2）動詞（句）の判別。

3）動詞として以外に，名詞，形容詞としての機能も持つ語が，与えられたコンテクストでどの機能を持つかの判別。

（例） mittens *warm* the hands

4）句と節との区別。

5）動詞と離れた主語の判別。(主語と動詞の間にある句の指摘)

(2) Verb agreement, tense, and form

1）主語と動詞の一致

(i)常に単数動詞をとる主語

- everyone, somebody, anything, each など。
- and で結ばれていても，前に each または every がある場合。
- 強調構文の主語である it。
- 形が複数形でも，単数扱いのもの。(時間，金額，重さ，学科名，病名，抽象名詞，本・映画のタイトル)

(ii)常に複数動詞をとる主語

- and や both...and...の形をとるもの。
- several, many, both, few など。
- trousers, pants, scissors, pliers, thanks など。

(iii)単数にも複数にもなる主語

- neither...nor..., either...or..., not only...but also...など。
- all (All of the book, All of the books, All of the money)
- 集合名詞，単複同形名詞。
- ギリシャ語，ラテン語からの借用語。(basis-bases, datum-data)

2）文意と時制の一致

タイムマーカー(so far, since..., for some time など）と完了時制。

3）不規則動詞の形

過去形と過去分詞，過去分詞と現在分詞の間違いに注意。

(3) Full Subordination

1）主節と従属節との区別。
2）句と節との区別。(before finishing dinner/before the rain stopped)
3）主節，従属節と句の区別。
4）関係代名詞と疑問代名詞との区別。
5）関係代名詞が省略された形容詞節の判別。
6）副詞節の種類と接続詞の選択。
7）that 節と疑問代名詞に導かれる名詞節。
8）名詞節と不定詞句，名詞節と形容詞節との区別。
9）名詞節，形容詞節，副詞節の区別。

(4) Verbals

1）不定詞と前置詞句との区別。(to park/to the park)
2）動名詞と，動詞の一部である現在分詞との区別。
3）形容詞の働きをする分詞と，動詞との区別。
4）現在分詞と過去分詞。(*frightening* movies/*frightened* children)
5）分詞構文の主語と，主節の主語との一致。

(5) Pronoun form, agreement, and reference

1）代名詞の主格，所有格，目的格，所有代名詞，再帰代名詞が正しく用いられているかの判断。
2）名詞と代名詞の，数の一致。

3) 関係代名詞と先行詞との一致。(the boy *which*)

(6) Word form

1) 名詞の接尾辞(– ation,–ment,– ence/ – ance,– al,– ure,– y)。

2) 派生名詞と動名詞の区別。

3) 形容詞，副詞の接尾辞(– ly,– al,– ive,– able,– ious)。

4) SVC 構文のVの種類(be, become, get, grow, smell, sound, remain)。

5) 比較級，最上級の形と，比較を含む重要構文。

(7) Word order

1) 主語と動詞の倒置。

(i) there で始まる構文。

(ii)場所を表す副詞(up, down, in, out)や，前置詞句が文頭にきて，しかも動詞が自動詞の場合。

(iii) if や unless を用いない仮定法。(Had he known,...)

(iv)否定を表す語(句) (never, hardly, seldom, barely, not only, at no time, nowhere)が文頭にきた場合。

(v) only プラス時を表す表現が文頭にきた場合。

(Only after her mother dided, *did she know* loneliness.)

(vi)名詞を修飾しない few, little, so, such で文が始まる場合。

(Little *did she know* that she had won the grand prize.)

(vii)間接疑問文の場合。

2) enough の位置。(*enough* money, young *enough*)

(8) Parallel structule

1) 名詞，動詞，形容詞，句，節などの並列が正しいかどうかのチェック。

2) 動名詞，不定詞の並列。

(*To speak* to a friend is easier than *speaking* to a stranger.)

3) 相関接続詞が同じ品詞をつないでいるかのチェック。

(She was not only *pretty* but also *knew* how to dress well.)

4) 比較が正しい形で行われているかのチェック。

(I like *john's car* better than *Fred*.)

(9) Unnecessary repetition

1) 同義語の暗記。(important – significant, short – brief)

2）more，less，forward，afterward などの意味を含む動詞の学習。

（例）wrong: The store *raised* the cost by ten dollars *more*.

correct: The store *raised* the cost by ten dollars.

(10) Correct usage

1）二つのものを表すか，三つ以上のものを表すかを整理して理解。(less/least，neither/none など)

2）take，make，do を含む熟語の復習。(*take* medicine，*make* a mistake，*do* a favor など)

3）a と an の区別。(*a* university，*an* hour など)

4）数えられる名詞と数えられない名詞の区別，そしてそれらとともに用いられる語。(many/much，few/little，number/amount など)

5）間違いやすい語のリストアップ。(accept/except，affect/effect など)

テキストには含まれていないが，重要な文法事項として補うものは以下の通りである。

1）原形動詞を用いるもの

・仮定法現在

essential，necessary，imperative などの形容詞，demand，insist，request，propose などの動詞に続く that 節の中の動詞。

（例）I insisted that she *leave* the room.

・助動詞，would rather，had better の後。

・使役動詞，知覚動詞プラス目的語の後。

2）have〔get〕プラス目的語プラス過去分詞の構文。

3）so that...can〔may〕，so...that，too...to の構文。

4）目的語として動名詞のみをとる動詞，不定詞のみをとる動詞。

5）動詞句を作る副詞(down/up，on/off，in/out，through，away，back，over)と，代名詞を伴う場合の語順。

（例）I turned *him* down.

6）say と tell の区別。

一つのエクササイズには，10-20の問題があるが，授業では，説明の後，5問ほど解いて，残りは宿題とする。一時間（50分）で平均五つのエクササイズをこなし，チェックリスト(6)(8)(9)(10)のほとんどは家庭学習として，夏休み前にこのセクションを一通り終える。チェックリストを二つ終える毎に復習テスト

を行う。既習の項目に関しては，ほとんどの学生が90％前後の正答率を示す。これは，問題のポイントがわかっているからであって，真の意味での実力とは言えない。

III. リーディング・セクションの内容と進めかた

Vocabulary は授業では扱わず，各自に任せる。但し，リスニングやストラクチャー・セクションで既習の重要な vocabulary に関しては，随時復習チェックを行う。

リーディングコンプリヘンションは，四つのトピックに従って学習する。

(1)Reference (2)Main Idea (3)Inference (4)Restatement

(1) Reference

・代名詞が指示する名詞を正確に指摘する練習。

・this, that, these, those の用法の理解。

このトピックに関しては，ほとんどの学生が容易にできるので，エクササイズの70％を家庭学習とする。但し，最後に用意されている TOEFL Practice (229 words のパッセージ，制限時間 8 分，問題数10問) では，正答率60％前後である。

(2) Main Idea

・与えられた文が，ジェネラルかスペシフイックかの区別。

・あるトピックについて，筆者の立場が賛成か反対かの判断。
in spite of, though, however, thanks to などの表現から筆者の立場を判断する練習。

・ベストタイトルの選択。
与えられた選択枝を，too broad, too narrow, insignificant detail という観点から分類し，ジェネラルなものを判別する練習。

(3) Inference

与えられた文の直前，もしくは直後にどのような内容の文がくるかを推測，または予想する練習。

(4) Restatement

・論理的な接続語の選択。

・比較，因果関係を含む文の内容の把握。

・パッセージの内容と与えられた文の内容が一致しているかどうかの判断。

その他，読み方（内容語，特に“reason, way, type, result, conclusion”などに注意），トピックセンテンスの位置，内容把握の仕方などを補足的に指導する。

リーディングコンプリヘンションでよく出題されるのは，生物，科学，経済評論，歴史であり，質問文で多いものを次に挙げる。

- What is the author's main point?
- What is the author's main purpose of the passage?
- What can be inferred from the passage?
- What does the author imply?
- What does the paragraph preceding〔following〕the passage probably discuss?
- Which of the following statements is true?
- Which of the following is the best title for the passage?
- Which of the following is NOT referred to by the author?
- What does the phrase “.....” refer to?

IV. 86年度実施TOEFLのストラクチャー・セクション二回分の分析

このTOEFLコースでは，問題数が一番少なく，しかも日本人学生が最も得意とするストラクチャー・セクションに重点を置き，その効果を確信している。よって授業内容と実際のテストがどう関連しているか，また市販されている六種類の問題集とテストの比較を表を用いて明らかにしてみたい。

まずテストの分析を例の10－Point Checklistにそって，試みた。問題数は40問であるが，判断に使用するポイントが重複する場合があるため，合計は必ずしも40にならない。

表1　前半15問，後半25問それぞれに含まれるポイントの数

表1

10-Point Checklist	Real Test (1)		Real Test (2)	
	前半15問	後半25問	前半15問	後半25問
(1) Subject, verb	3	2	7	2
(2) Verb agreement..	2	1	0	1
(3) Subordination	7	0	3	0
(4) Verbals	0	0	0	2
(5) Pronouns	0	2	1	0
(6) Word form	1	10	1	12
(7) Word order	2	0	2	1
(8) Parallel	1	2	1	1
(9) Repetition	0	0	0	0
(10) Correct usage	1	9	3	7

-表1の分析結果-

1) 前半15問によく出題されるポイント
   (1)Subject and verb
   (2)Full subordination (phrase and clause)
   (3)Word order
   (4)Correct usage
2) 後半25問によく出題されるポイント
   (1)Word form
   (2)Correct usage
   (3)Subject and verb
   (4)Verbals
3) テスト対策

10-Point Checklist は，非常に効果的であり，すべて習得すべきであるが，(1)(2)(3)(6)(10)を最重要項目とし，(4)(5)(7)(8)(9)に優先させて学習するのが，より効果的である。

次に六種類の問題集を分析し，実際のテストとの比較を通して，どのレベルの学生がどう使用すればよいかを述べてみたい。

(A): Prentice－Hall's Practice Tests for the TOEFL（4回分）

(B): Barron's How To Prepare for the TOEFL（4回分）

(C): Grammar Review for the TOEFL（3回分）

(D): ARCO's TOEFL（4回分）

(E): Practice for the TOEFL（4回分）

(F): Building Skills for the TOEFL（2回分）

1）実際のテストと上記六種類の問題集に出題されるポイントの数

（それぞれ1回分あたりの平均問題数-前半15問，後半25問）

表2(1)-(10)は10－Point Checklistの項目を示す。重複があるため，合計が必ずしも40問にならない。

表2

	Tests		(A)		(B)		(C)		(D)		(E)		(F)	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
(1)	5.0	2.0	2.0	1.0	1.0	0.3	0	0	5.3	0.8	0.5	0.5	6.0	1.5
(2)	1.0	1.0	0.8	1.5	2.5	6.8	3.0	6.3	0	5.3	2.3	4.0	0.5	3.5
(3)	5.0	0	6.5	0.5	0.5	0.3	0.7	1.0	5.8	2.5	1.3	1.5	4.0	1.0
(4)	0	1.0	1.0	2.0	3.3	0.8	0.7	2.7	1.5	2.3	2.8	2.8	1.5	1.0
(5)	0.5	1.0	0	1.8	0	3.3	1.3	2.0	0	0.8	0.8	2.5	0	3.5
(6)	1.0	11.0	0.5	6.0	0.8	6.3	1.3	1.3	0.3	4.3	1.5	2.0	0	5.5
(7)	2.0	0.5	0.8	1.0	2.8	0.3	0.7	1.3	0.8	2.3	1.3	0.5	3.0	0.5
(8)	1.0	1.5	0.8	2.3	1.3	3.3	1.3	2.0	2.3	1.5	0.5	0.8	0	1.5
(9)	0	0	0	0.8	0.3	0.3	0	0	0	0.8	0	1.0	0	1.0
(10)	2.0	8.0	2.5	8.3	2.5	5.8	6.0	7.7	2.0	4.8	5.3	11.0	1.0	6.0

実際のテストと出題ポイントの配分が似ているのは，(A)と(D)である。

2）前半，後半それぞれ一問に含まれる単語数の平均値

表3

	Tests	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
前半15問	13.5	13.6	12.4	10.0	13.8	12.9	12.2
後半25問	16.1	17.8	19.3	15.1	20.8	20.6	16.9

後半25問の単語数は，(C)を除いて，実際のテストより多い。問題の難易度にもよるが，スピードをつけるという点で，適切と思われる。

3) 問題の内容（1回分あたりの平均問題数)

表4

	Tests	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
生物	8.0	9.5	2.0	0	4.0	0.5	4.5
文学・芸術・言語	6.5	5.5	2.5	0.5	1.5	0	2.5
経済・産業	5.0	2.0	5.0	0.5	1.5	2.0	4.5
政治・社会	4.5	4.5	3.0	0	3.0	2.0	1.0
天文・宇宙・気象	2.0	1.0	0.5	0.5	10.0	1.0	2.5
鉱物・地質・考古	2.0	1.5	1.0	0	1.5	0	1.0
医学・栄養	2.0	3.0	4.5	0.5	1.0	0.5	2.5
スポーツ・運動	1.5	0	1.0	0.5	0	1.0	1.5
教育・大学	1.5	0	2.5	2.5	0	3.5	1.0
農業	1.5	2.5	1.5	0.5	1.0	1.0	1.0
建築・環境	1.5	3.5	1.0	0	1.0	1.5	1.0
物理・数学・科学	1.0	2.5	1.5	0	1.5	1.0	2.0
化学	1.0	0	1.5	0	1.0	1.5	0
哲学	1.0	0	0	0	0.5	0	0
地理	0	1.5	1.5	1.0	2.5	1.5	3.5
交通・旅行	0	0.5	1.5	0	0	1.0	1.5
歴史	0	1.0	2.0	0	7.0	0.5	3.5
心理・宗教・人類	0	1.0	1.0	0	0	0	0
その他	1.0	0.5	6.5	33.5	2.5	21.5	7.0

(A)が実際のテストの内容とよく似た配分を示している。(C)は，口語表現が多く，専門的な内容が著しく少ない。また，授業で用いている(E)(F)も比較的専門的な内容が少ないので，(D)を併用することによって，十分カバーできていると思われる。

以上より，テキスト(Building Skills for the TOEFL)が，難しいと感じる学生(TOEFL のスコアが400前後）は，まず基礎固めとして(C)を用い，細かい文法事項に弱い学生（スコアが400–480）は，(B)とクリスフ版 TOEFL 英文法を，次のレベルの学生は，(E)(F)を終えた後，(A)(D)で実践的問題を数多くこなすことが，勧められる。

V．TOEFL コース受講者と一般学生との比較

次に，86，87年度実施の TOEFL 結果より，全受験者の平均点を基準として，TOEFL コース受講者の平均点がどれだけ上回っているかを，表にしてみた。

表5

	S-1（聴解）	S-2（文法）	S-3（読解）	Total
86年度	プラス 4	プラス 6	プラス 3	プラス 43
87年度	プラス 2	プラス 4	プラス 1	プラス 28

S–2（ストラクチャー・セクション）の効果が一番大きく，S–1（リスニング・セクション），S–3（リーディング・セクション）と続いている。これは，授業においての重点の置きかたとまったく一致しており，授業の効果がある程度計算できることを示していると思われる。

86年度で最も伸びた学生は，トータル467から557，87年度では，450から510となっている。 これら二人の学生の伸び率から，実質的には5か月の訓練で，60–90点アップの可能性があると言える。さらに工夫を重ねて，より効果的に，より多くの学生が大幅に点数を上げられるようにしたい。

VI．各セクションにおける問題点

1）リスニング・セクション

日常会話によく用いられる表現(make it, turn down, I got it. など), シチュエイションを判断するためのキーワード(prescription, plumber, withdraw など), そして大学用語(enroll, drop out など, 学科名, 専門用語), すべてにわたって説明を要するので, 時間がかかりすぎて, 本来のリスニングの練習を家庭学習に委ねなければならない。ゆえに, やる学生とやらない学生との差が大きく広がってしまうのが現状である。

2) ストラクチャー・セクション

TOEFL 文法と, 一般的英文法・口語英語との相違が, 混乱を招きがちである。特に, 一般的英文法に習熟していない学生にとっては, 大きな負担となる。よって, 一年生の英文法の授業との関連性が増せば, その負担も軽減されるであろう。

上述したように, テキストの段階別のエクササイズは比較的容易にこなし, 高い理解度を示すが, TOEFL Practice となると, 正答率が下がる。これは, 総合問題の場合に, 10-Point Checklist を迅速に活用できるほどには, 習熟していないこと, また, 出題数が多い上に, 細かく, 広範囲にわたる知識を必要とする⑽ Correct Usage (前置詞, 定冠詞, 重要構文など) を苦手としていることが, 原因と思われる。

3) リーディング・セクション

1. 読む速度が遅い。
   一年生で速読の訓練を受けたかどうかの影響が大きい。一分間で200ワード以上のスピードが欲しい。
2. 読みかたを知らない。
   トピックは何か, トピックセンテンスの位置はどこか (ディダクティブかインダクティブか), 筆者の立場や伝えたい内容は何かなどを考えずに, 一語ずつ目で追っている。
3. 接続語の役割を正確に理解できていない。
4. ジェネラルとスペシフィックの判断力に欠ける。
5. パッセージの内容に不慣れである。最近の学生の傾向として, 新聞, 雑誌を読まないので, 基礎知識がなく, 推測できない。また大学一年生レベルの, 英語で書かれた教科書を読んだ経験がないか, 非常に少

ないため，単語レベルで行き詰まり，内容が理解できない。TOEFLのこのセクションでは，大学の教科書の内容を多く出題する傾向が強まる一方なので，600点を超えるためには，その対策が必要と思われる。

参考文献

Steinberg, Roberta. *Prentice-Hall's Practice Tests for the TOEFL*. N.J.: Prentice-Hall, Inc., 1987.

Sharpe, Pamela J. *Barron's How To Prepare for the TOEFL*. New York: Barron's, 1986.

Jenkins-Murphy, Andrew. *Grammar Review for the TOEFL*. Florida: Harcourt Brace Jovanovich, 1982.

Babin, Edith H., Cordes, Carole V., Nichols, Harriet H. *TOEFL*. New York:ARCO, 1986.

Mason, Victor M. *Practice Tests for the TOEFL*. Edinburgh:Nelson, 1983.

King, Carol, Stanley, Nancy. *Building Skills for the TOEFL*. Edinburgh:Nelson, 1983.

マイケル・A・パイル，メリー・エレン・ムニョス「クリフス版 TOEFL 英文法」洋販出版　1987。

森田勝之「TOEFL の英語」荒竹出版　1985。

小川富二「TOEFL 基本問題集」荒竹出版　1987。

村川久子「TOEFL の傾向と攻め方」日本英語教育協会　1985。

森田勝之「TOEFL の英単語」日本英語教育協会　1985。

森田勝之「TOEFL の英熟語」日本英語教育協会　1985。